

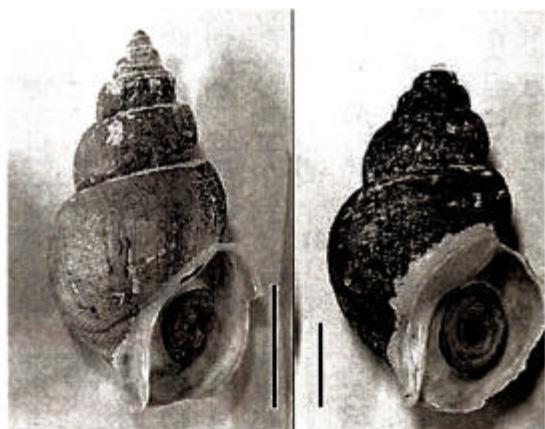
大和堆は日本海の中央にある浅瀬。北隣にある「北大和堆」と合わせると九州くらいの広さがある大きな海中丘陵です。周囲は1500m以上の深海ですが、最浅部は270m。高さが1000m以上もあるので、丘陵というよりは山脈といった方がいいかも知れません。

深い海にそり立つ大山脈なので、湧昇流が起こりやすくスルメイカの好漁場ができる。何十万年もの昔、日本海がいまよりずっと以前にも紹介しましたね。海底にエビ、バイガイなどがいるので新しい漁場と

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

大やまとたい 和とたい 堆



大和堆のツバメガイ(左)は色白でスマート

似ているはずです。とていうことは以前にも紹介しましたね。海底に浅かった時代に、隱岐から半島状にのびる浅瀬を通って大和堆に渡ったというのが、今のあちこちから、100匹くらいのツバメガイが日本海に現れています。ところが、院生のI君と4回生のI君が日本海の大平原が広がっていて、その深さは300mを越します。這一結果が出たのです。

大和堆のツバメガイは殻の形も遺伝子も北海道の日本海沿岸にいるツバメガイとよく似ています。本州の日本海沿いに暮らすツバメガイとは明らかに暮らすツバメガイとよく似ています。しかしすると偶然なかも知れません。あるいは大陸から日本列島が分かれて日本海ができていく途中に、北海道と大和堆が繋がっていた時代があったのかかも知れません。二人のI君が見つけたツバメガイの特徴は、日本海がでてきた過程や日本海の深海に暮らす生物がどんな風に生きてきたかを明らかにする大発見となるかも。

ところ一番もつともらしい仮説。もしこの仮説が正しければ、大和堆のツバメガイは山陰沿岸に暮らすツバメガイとよく

の日本海沿岸にいるツバメガイとよく似ています。本州の日本海沿いに暮らすツバメガイとは明らかに暮らすツバメガイとよく似ています。

大和堆と北海道のツバメガイ似ているのは、もしかすると偶然なかも知れません。あるいは大陸から日本列島が分かれて日本海ができるまで、日本海がでていた時代があったのかかも知れません。二人のI君が見つけたツバメガイの特徴は、日本海がでてきた過程や日本海の深海に暮らす生物がどんな風に生きてきたかを明らかにする大発見となるかも。